

平成20年11月19日
水産庁
独立行政法人 水産総合研究センター

平成20年度日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

—別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果—

今後の見通し（2008年11月～2009年3月）のポイント

漁況（来遊量）

さば類（島根県～新潟県）

前年並み。

マアジ（島根県～新潟県）

前年並み。

マイワシ（島根県～新潟県）

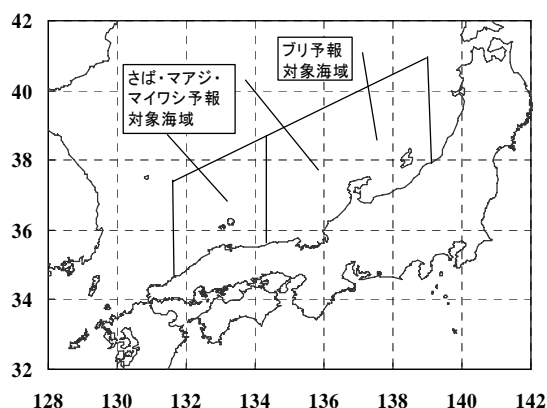
低調に推移する。

ブリ（兵庫県～新潟県）

0歳魚は前年を下回る。

1歳魚は前年を上回る。

2歳魚以上は前年を上回る。



※「前年」は2007年11月～2008年3月を示す。

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：大隈、和田、染川

電話：03-3502-8111(内線 6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

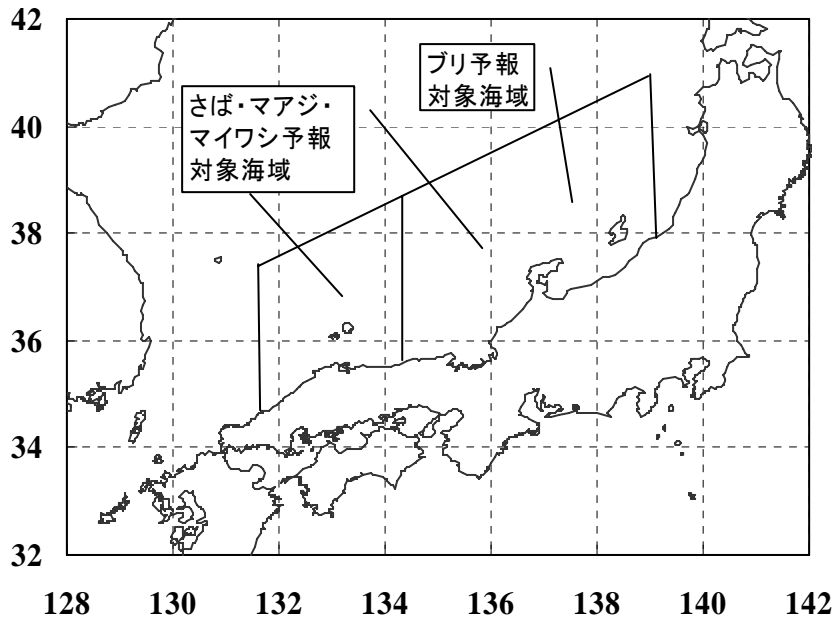
独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>



予報対象海域

日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

今後の見通し（2008年11月～2009年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）
日本海西部海域では、来遊量は前年並みである。中部以北の沿岸域では、前年を上回る来遊となる。
2. マアジ（島根県～新潟県）
0歳（2008年級）と1歳魚（2007年級）を主体とした漁獲がみられ、来遊量は前年並みである。
3. マイワシ（島根県～新潟県）
マイワシの来遊は引き続き低調に推移し、漁獲は散発的になる。
4. ブリ（兵庫県～新潟県）
各年級の来遊は以下のとおり予想される。
0歳魚（2008年級）：前年を下回る。
1歳魚（2007年級）：前年を上回る。
2歳魚以上（2006年およびそれ以前の年級）：前年を上回る。

漁況の経過（2008年1～9月）、および今後の見通し

1. さば類（図1,2）

●2008年1～9月の経過

日本海で漁獲されるさば類は、東シナ海と日本海の間を回遊する対馬暖流系資源の一部で、その動向は東シナ海域と密接に関わっている。過去5か年（2003～2007年）の日本海主要港（島根県～新潟県）におけるさば類の漁獲量は15,000～25,000トンであったが、2004年以降は増加傾向を示している。

2008年1～9月における日本海主要港（島根県～新潟県）の水揚量は約8,000トンで、前年同期（15,700トン）および過去5か年平均（11,400トン）を大きく下回った。府県別では、全体に占める割合が大きい鳥取県および島根県（まき網）が殆どの月で前年を下回り、全体に占める割合は約4割（3,130トン）で、前年同期の約7割を大きく下回り低調に推移した。

一方、中部以北海域におけるまき網（主体は石川県および新潟県）の漁獲量は 2001 年の 7,800 トンから 2004 年の 3,400 トンにまで減少した後、2005～2007 年には 4,600 ～6,500 トンに増加した。2008 年の 1～9 月の漁獲量は 2,900 トンで、過去 5 か年平均と同程度であったが、前年同期（3,200 トン）を下回り、1 月以外には低調に推移した。また定置網（兵庫県以北）の漁獲量は 2001 年以降増加傾向にあったが、2007 年に大きく減少した。2008 年 1～9 月の漁獲量は 1,890 トンで、前年同期（1,150 トン）および過去 5 か年平均（1,530 トン）を大きく上回り、特に 5 月までに低調の前年を大きく上回り堅調に推移した。

●資源状態と年級の豊度

対馬暖流系におけるマサバの資源量は、1992～1996 年に増加傾向にあったが、1997 年に急減し、1999～2007 年は低い水準で横ばい傾向にある（平成 20 年度マサバ対馬暖流系群の資源評価より）。2006 年級の豊度は 2005 年級と同程度で、2007 年級の豊度は 2006 年級と同程度とみられる。2008 年級の評価は難しいが、漁況経過から 2007 年級と同程度かやや高い豊度と予測されている。これらのことから、0 歳魚（2008 年級）は前年並みかやや上回り、1 歳魚（2007 年級）は前年並みで、2 歳魚（2006 年級）は前年並みと考えられる（西海区水産研究所「平成 20 年度第 1 回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報」より）。

●今後の見通しについて

日本海の漁獲量は、例年、西部海域のまき網の占める割合が大きく、0 歳と 1 歳が漁獲の主体である。2008 年級（0 歳魚）および 2007 年級（1 歳魚）の豊度が前年並みかやや上回ると考えられることから、西部海域への来遊量は前年並みとみられる。また中部以北海域における定置網の漁況が堅調であることから、沿岸域の来遊量は前年を上回ると考えられる。

以上のように、西部海域への来遊量が前年並み、中部以北沿岸域への来遊量が前年を上回ると判断されたが、日本海の漁獲量は、西部海域のまき網が主体となっているので、

全体への来遊量は前年並みと考えられる。

●海況について

「平成 20 年度第 3 回日本海海況予報」（日本海区水産研究所）によれば、2008 年 10～12 月、対馬暖流域の表面水温および 50m 深水温は「平年並み」で経過すると予想されており、全般的には漁況に与える影響は少ないと思われる。

2. マアジ（図 3～5）

●2008 年 1～9 月の経過

2001～2007 年における島根県～新潟県の主要港の水揚げ量は 39,500～67,600 トンでほぼ横ばい傾向であった。2008 年 1～9 月の漁獲量は 32,700 トンで、前年同期の 44,000 トンおよび過去 5 年（2003～2007 年）平均（37,100 トン）を下回った。月別では 2～3 月以外前年を大きく下回った。定置網および漁獲の大半を占めるまき網の漁獲量は共に殆どの月で前年を下回り低調に推移した。

●資源状態と年級の豊度

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系資源の一部であり、その動向は対馬暖流系群の資源状態と密接に関わっている。対馬暖流系群における 2007 年級（1 歳魚）の豊度は 2006 年級（2 歳魚）と同程度と考えられる。また、2008 年級の豊度は稚仔魚および幼稚魚分布調査などから 2007 年級と同程度か上回ると考えられる（西海区水産研究所「平成 20 年度第 1 回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報」より）。

日本海区水産研究所、鳥取県および島根県が共同で毎年 5～7 月に日本海西部海域でマアジの新規加入量調査を行っている。中層トロールによるマアジ幼魚の採集数と水温分布から求めたマアジの加入量指数（来遊量の多さ）は、来遊量の多かった 2003 年を 1 とすると、2008 年は 1.2 で、前年（0.5）の約 2.5 倍となり、2003 年の調査開始以来の最高水準となった。推定されたマアジ幼魚の加入量指数は、境港におけるまき網 1 ヶ統あたりの 0 歳魚の漁獲尾数とある程度対応関係が見られるので、日本海西部海域

における0歳の来遊量は前年を上回る可能性が高いと考えられる。

●今後の見通しについて

11～3月における日本海の漁獲量は、例年、0歳と1歳が漁獲の主体で、2歳魚以上も漁獲される。1～9月の漁況は定置網もまき網も低調に推移したが、対馬暖流系群における2008～2006年級（0～2歳魚）の豊度はそれぞれ前年並みであること、および日本海へのマアジ0歳魚の加入量指数が高水準であることから、マアジの来遊量は前年並みと考えられる。

3. マイワシ（図6,7）

●2008年1～9月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は1990年代に著しく減少したが、2001年以降には増加傾向を示している。2008年1～9月における日本海主要港（島根県～新潟県）への水揚量は約6,000トン、前年同期の2,220トンおよび同期間における過去5か年（2003～2007年）平均（1,450トン）を大きく上回ったが、その漁獲は依然散発的で低水準にとどまっている。漁獲の内訳は鳥取県と島根県のまき網による漁獲量が4,470トンで全体の約79%を占め、特に3～5月に毎月1,000トンを越える漁獲がみられた。

●資源状態と年級の豊度

漁獲量は増加傾向にあるが、マイワシ資源は極めて低位の状態が続いており、2008年級の加入水準も低いと考えられる。

4. ブリ（図8,9）

●2008年1～9月の経過

2000～2007年における兵庫県～新潟県の主要定置網の漁獲量は4,900～8,500トンであった。2008年1～9月における漁獲量は5,730トンであり、過去5か年（2003～2007年）平均（4,840トン）を大きく上回り、前年同期（5,650トン）と同程度であった。冬季（1～3月）の漁況が前年を下回ったが、特に5月と6月に前年を大きく上回り、

全般的に堅調に推移した。

兵庫県～新潟県における0歳魚の漁況は低調に推移した。1～9月の漁獲量は1,700トンで、同期間における前年(2,400トン)および2006年(2,200トン)を下回った。2008年級の加入による7～9月の漁獲量も低調に推移した。1歳魚(2007年級)の漁獲量は2,500トンで、同期間における前年の1,650トンおよび2006年の980トンを大きく上回った。特に4～7月の漁況は堅調に推移した。2歳魚以上(2006年級および2005年以前の年級)の漁獲量は1,480トンで、同期間における前年の1,570トンをやや下回ったが、2006年の1,320トンおよび過去5か年(2003～2007年)平均(1,180トン)を大きく上回り、特に5月以降の漁況が好調であった。このように、0歳魚の漁況が低調であったが、1歳魚と2歳魚以上の漁獲量は過去5か年平均を上回り、堅調に推移した。

●資源状態と年級の豊度および今後の見通しについて

ブリの資源水準は1990年代以降安定し、海洋環境もブリの来遊に好適である。6～9月までの0歳魚(2008年級)の漁況が好調の前年および2006年の同期を大きく下回ったことから、2008年級(0歳魚)の資源水準は前年を下回ると考えられる。2007年級(1歳魚)の資源水準は、2008年1～9月における漁模様は前年および2006年を大きく上回ったことから、前年より高いと判断される。2006年級以上(2歳魚以上)の資源水準は漁模様から低調の前年を上回ると判断される。

●海況について

「平成20年度第3回日本海海況予報」(日本海区水産研究所)によれば、2008年10～12月の対馬暖流域の50m深水温は西部および北部とも「平年並み」、また佐渡沖の冷水域の張り出しは「やや弱い」と予想されている。冷水域の張り出しが弱いと、南下期のブリの接岸が弱く、定置網への入網に不利になると考えられるので、今後の海況が特に日本海北部沿岸の定置網へのブリ入網に影響することがあると考えられる。

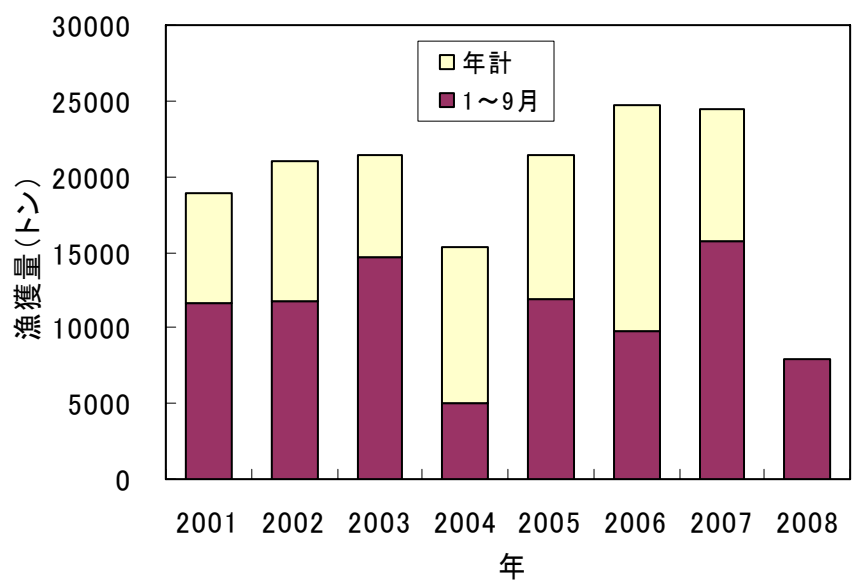


図1 さば類の漁獲量の経年変化(島根県~新潟県、2008年は9月まで)

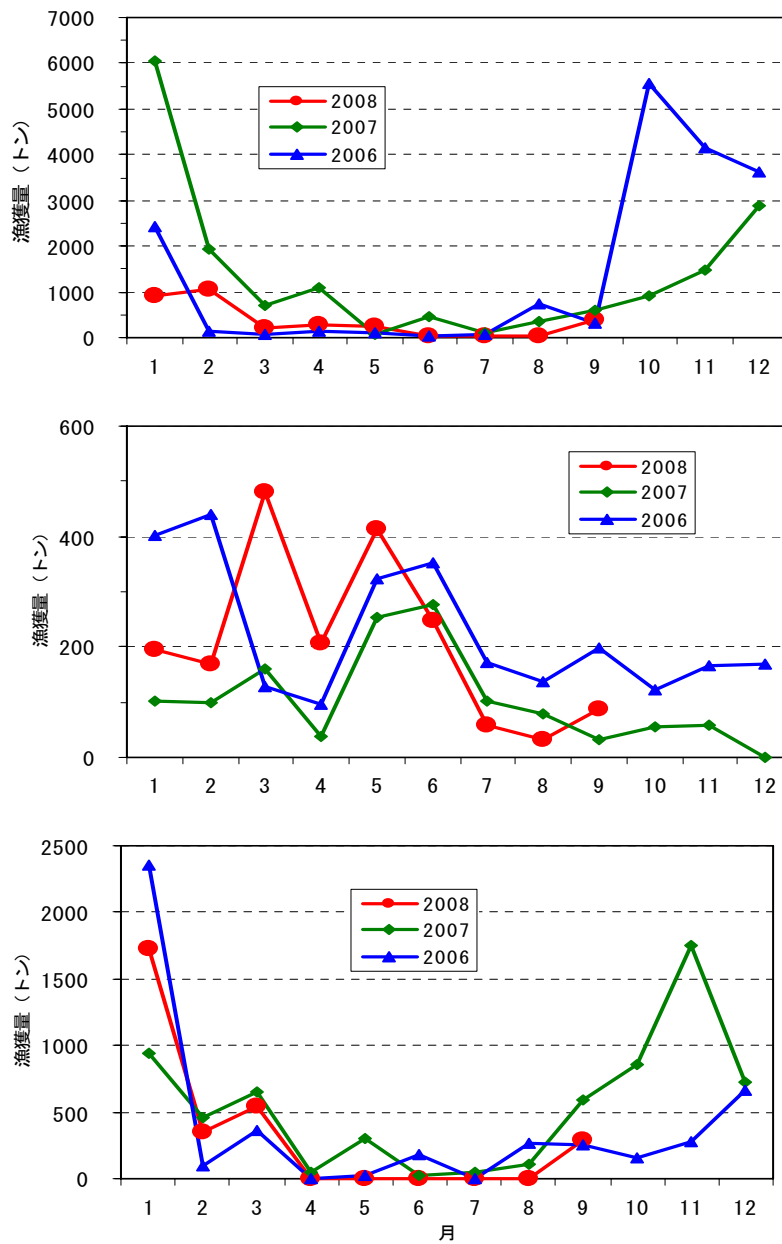


図2 さば類の月別漁獲量の推移（2006-2008年、2008年は9月まで）

上：島根県～鳥取県（まき網）

中：兵庫県～新潟県（定置網）

下：兵庫県～新潟県（まき網：定置網以外を集計）

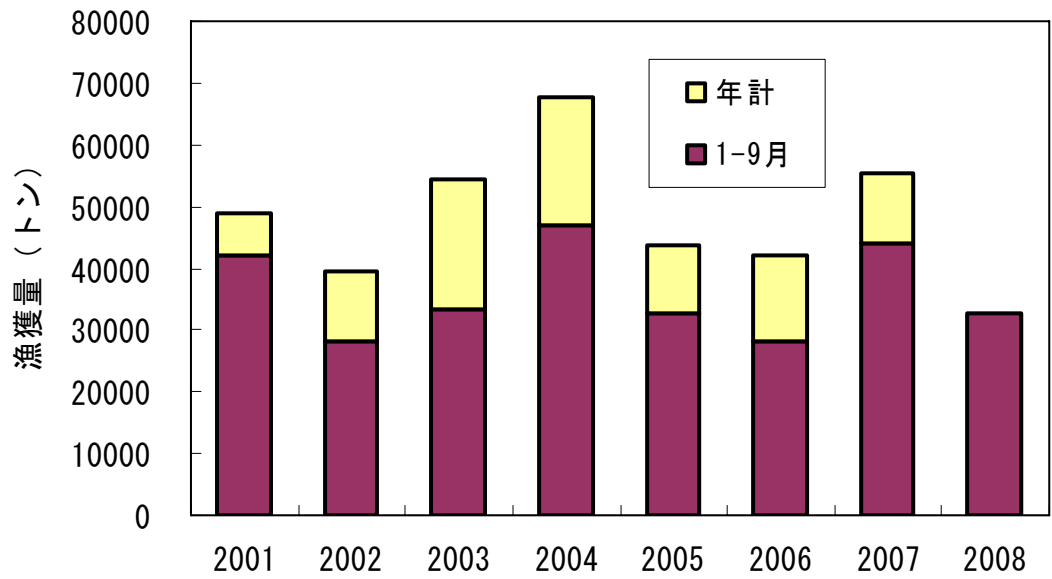


図3 マアジの漁獲量の経年変化(島根県～新潟県、2008年は9月まで)

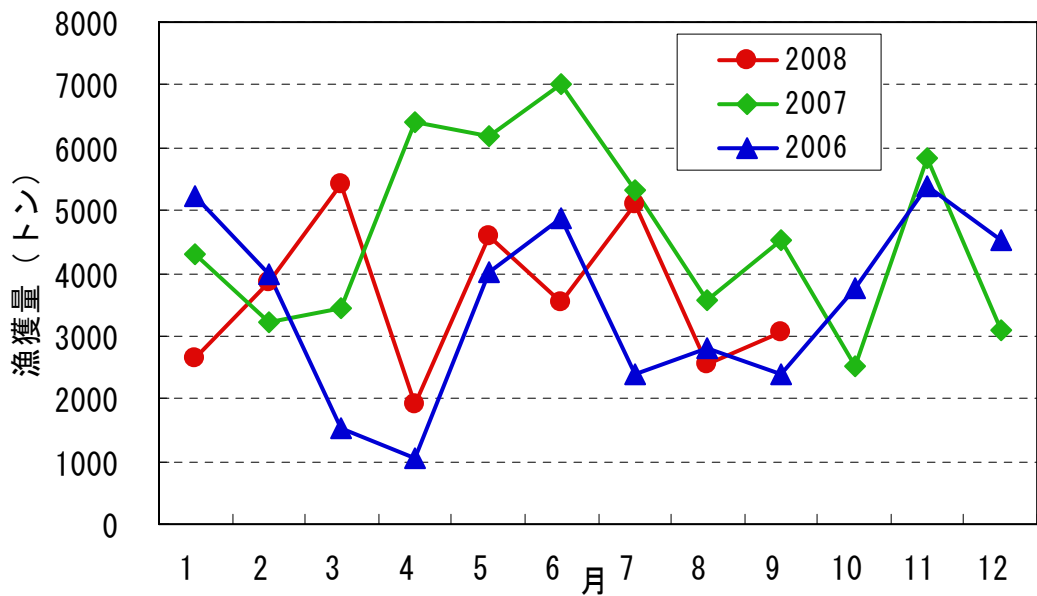


図4 マアジの月別漁獲量の推移(2006-2008年、2008年は9月まで)

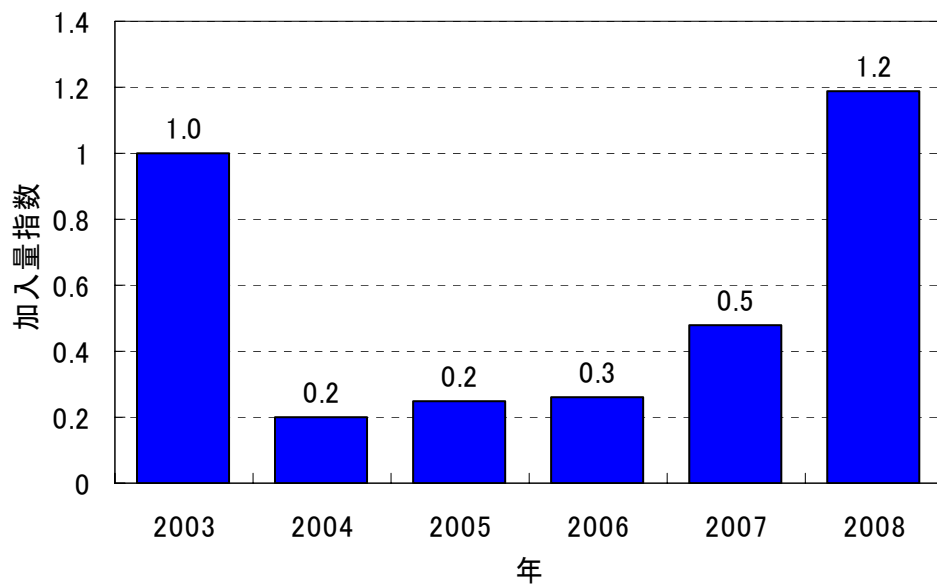


図 5 トロール調査によるマアジ幼魚の採集数と水温分布から算出されたマアジ加入量指数の経年変化（2003 年を 1 とした）

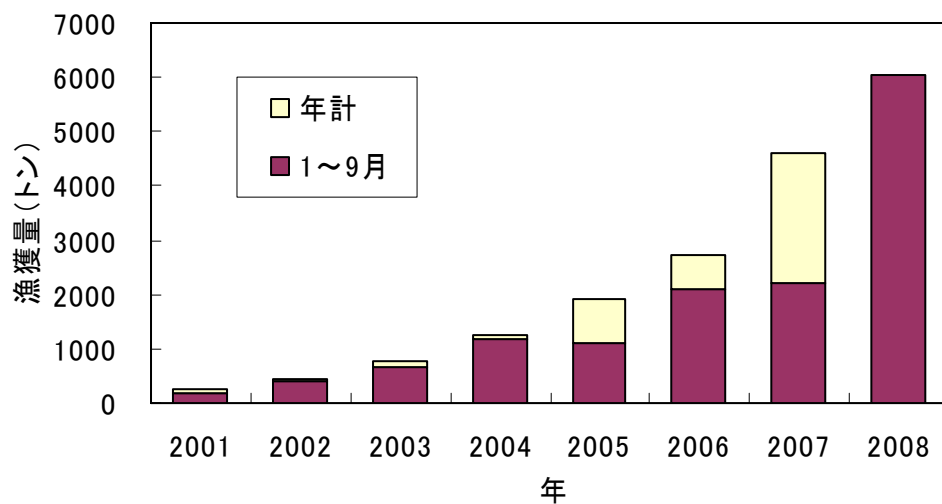


図 6 マイワシの漁獲量の経年変化（島根県～新潟県、2008 年は 9 月まで）

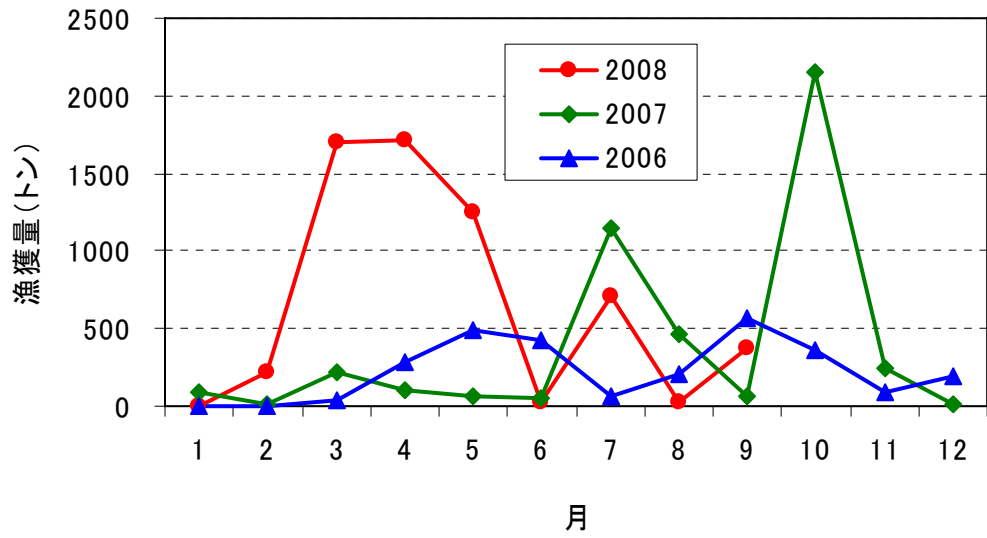


図7 マイワシの月別漁獲量の推移（2006-2008年、2008年は9月まで）

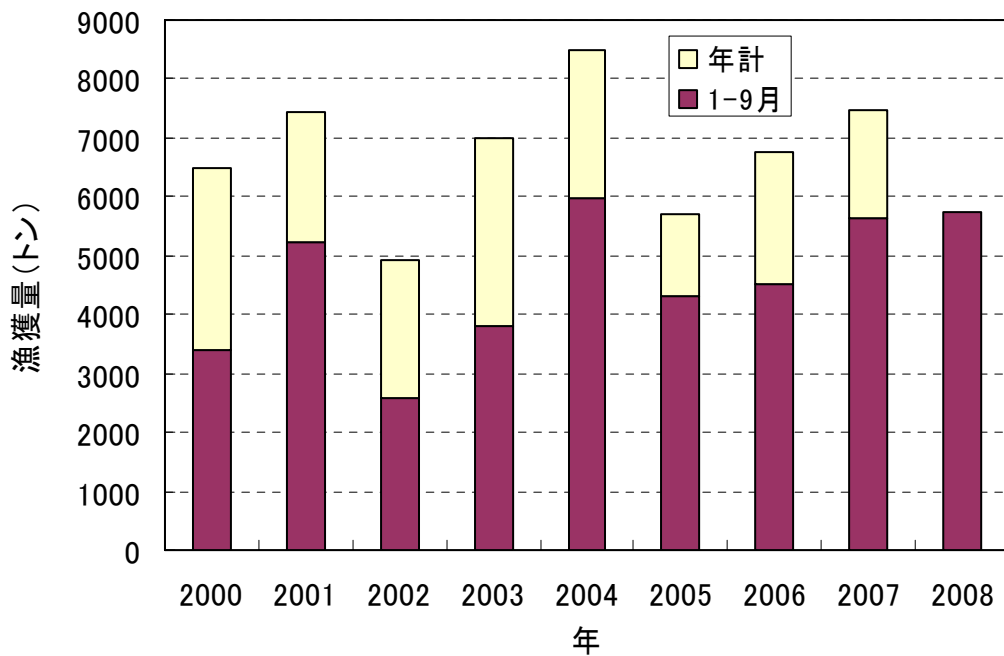


図8 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網漁獲量経年変化（2008年は9月まで）

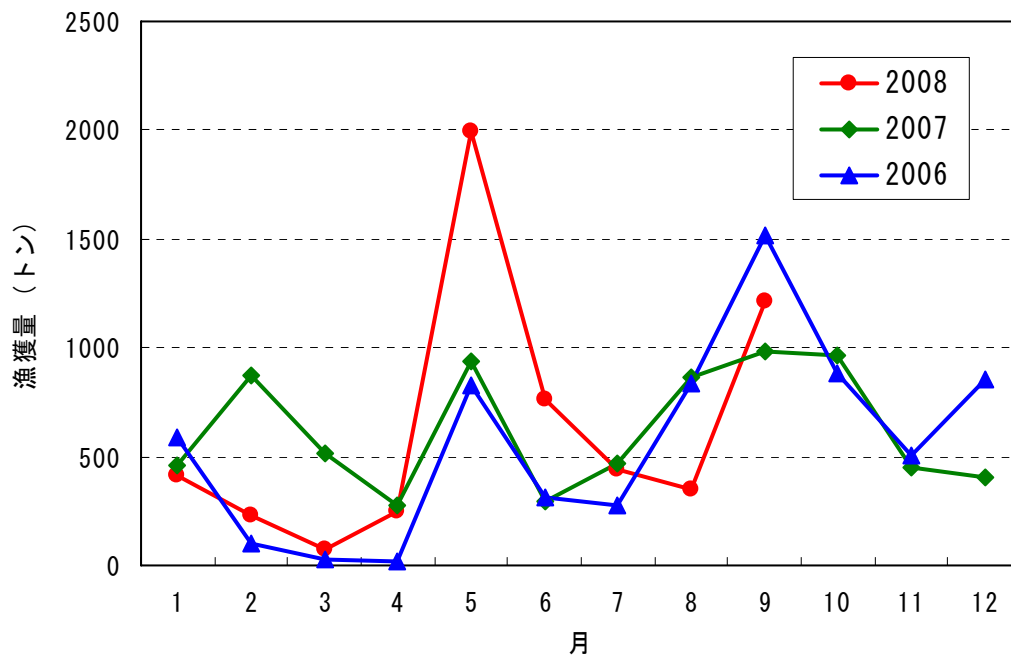


図9 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網月別漁獲量

(2006-2008年、2008年は9月まで)

参 画 機 関

青森県水産総合研究センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
石川県水産総合センター	独立行政法人 水産総合研究センター 西海区水産研究所 日本海区水産研究所
福井県水産試験場	
京都府立海洋センター	